



美しい 県土づくりNEWS

2017年

6月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第155号
平成29年6月30日発行
編集 県土整備企画室

目次

- 1 達増知事が台湾・香港を訪問し岩手県を売込み
- 4 野田村土地地区画整理事業・都市公園事業 竣工式開催
- 6 水害から暮らしを守る 放水路の仕組みを勉強
- 8 平成30年度政府予算等に係る提言・要望を実施
- 10 「優秀建設施工者岩手県知事表彰式」を開催



三陸復興

達増知事が台湾・香港を訪問し岩手県を売込み

空港課

平成29年5月30日から6月3日までの日程で、知事を団長とするミッション団が台湾と香港を訪問し、航空会社や旅行会社に対して定期便誘致活動や本県の観光物産のPR等を行いました。



↑ 6/1 観光レセプション開催(台湾)

本県の魅力とともに、東日本大震災津波に対する支援への感謝を伝え、台湾のみなさんとの交流、友情を深めることができました。



↓ 6/2 EGLツアーズ社訪問(香港)

暖かくお迎えいただき、ミッション団一同も交え記念撮影を行いました。



台湾訪問ミッションの概要

台湾では、5月31日(水)に中華航空とタイガーエア台湾(航空会社)、6月1日(木)に ezTravel 社(旅行会社)を訪問し、チャーター便の運航拡大や定期便誘致活動を行いました。

そのほか、現地政府機関等を訪問するとともに、6月1日(木)には県主催の観光レセプションを開催し、本県の観光資源のPRを行うなど、台湾とのさらなる交流拡大を図りました。



5/31 中華航空訪問



6/1 タイガーエア台湾訪問

手のしぐさは...
「タイガー」エア⇒「虎」のポーズ?



6/1 ezTravel 社訪問

訪問先には、岩手が誇る工芸品、「南部鉄瓶」をお渡ししました。

秋の台湾国際チャーター便の運航について

今年も、台湾からの秋のチャーター便が運航されます。恒例となっている中華航空の紅葉チャーター便に加え、タイガーエア台湾が初めていわて花巻空港に就航することになり、9月3日から10月25日までの約2ヶ月間、合計34便が運航されることになりました。多くの台湾の皆様へ、岩手、東北の秋を楽しんでいただけることと思います。

香港訪問ミッションの概要

ミッション団は、6月2日(金)、香港航空(航空会社)、EGLツアーズ社(旅行会社)等を訪問しました。

香港航空及びEGLツアーズ社の訪問では、岩手県や東北の自然、食などの観光資源をPRするとともに、いわて花巻空港が東北の中心にあり、東北周遊旅行に適しているという利便性を説明しました。

香港航空やEGLツアーズ社からは、東北の魅力や可能性を理解して頂き、香港・花巻間の定期便の検討を今後進めていくことで一致しました。

また、チャーター便の検討についても話があり、今後その実現に取り組んでいきます。



香港航空訪問



EGLツアーズ社訪問



在香港日本国総領事館訪問



はなっぴー

香港・花巻間の定期便就航を目指します!!!

香港国際空港について

アジアのハブ空港の一つとして、非常に利便性が高く、香港を訪れる際に利用するだけでなく、乗り継ぎで世界中に行くことができる空港です。チャーター便運航、定期便化の実現に向けて、取組を進めていきます。

野田村土地区画整理事業・都市公園事業 竣工式開催

県北広域振興局土木部

野田村では、平成25年8月から整備を進めてきた野田村土地区画整理事業及び都市公園事業が概ね完成したことから、東日本大震災津波の月命日である6月11日（日）、竣工式を開催しました。

竣工式は、十府ヶ浦公園内の「のんちゃんパーク」等で行われ、主催者である野田村の小田村長をはじめ、ご来賓や地域の皆様など関係者約170人が出席しました。

代表者による園名碑の除幕やテープカットが行われたほか、アトラクションとして、地元野田中学校吹奏楽部による演奏、野田小学校6年生による野田小ソーランなど子供たちの元気溢れるパフォーマンスも披露され、多くの村民等もお集まりのなか祝福ムードで盛り上がりました。

式典では、出席者全員で東日本大震災による犠牲者へ黙祷をささげた後、公園内の施設愛称等を考案していただいた野田小・中学校の生徒たちへの感謝状贈呈などが行われました。

園名碑の除幕（写真提供：野田村）



都市公園事業テープカット



佐々木復興局長による祝辞



◆ 多重防災型のまちづくりで、将来にわたって災害に強いまちへ

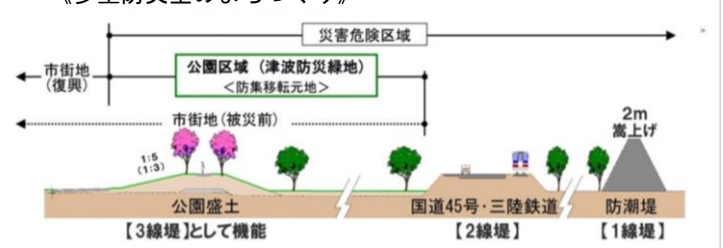
野田村では、これまでの津波被害の経験を踏まえて、災害に強いものとするための多重防災型のまちづくりを目指しています。

野田地区（城内・泉沢・米田・南浜地区）は、津波に対する直接的な防災施設として第1線となる防潮堤、第2線となる国道45号・三陸鉄道盛土及び津波の威力の抑制と避難時間の確保を図るために第3線となる公園盛土の3つの“防御”により、まちを守ります。

また、中心市街地である城内地区では、第3線から東側を非居住エリアとして住宅の高台移転などを進めるとともに、第3線から西側のエリア約12.9haについては土地区画整理事業による整備を行いました。

さらに、第2線と第3線の間となるエリア約19haは、都市公園事業により、緩衝地帯として津波エネルギーを吸収するポケット状の公園（十府ヶ浦公園）の整備を行いました。

■十府ヶ浦公園の断面イメージ（写真提供：野田村）
《多重防災型のまちづくり》



◆野田村土地区画整理事業 ～住まいの再建～

【概要】

野田村の中心市街地を形成していた城内地区は、震災により壊滅的な被害を被ったため、防災性を高めるとともに、潤いと活気のある市街地への再生として、土地区画整理事業により基盤整備を実施し、安心・安全なまちづくりを推進しています。

【事業内容】

- 事業期間：平成24年度～29年度
- 事業主体：野田村
- 総事業費：約17億62百万円
- 計画面積：12.9ha（137戸）
- 整備内容：道路、公園、上下水道等一式

【関連事業】

- 災害公営住宅整備事業13戸（H27.4.16入居開始）
- 防災拠点施設整備事業：保健センター
- 村営住宅整備事業10戸（H30.3完成予定）



◆都市公園事業(十府ヶ浦公園)～津波から市街地を守る～

【概要】

十府ヶ浦公園は、災害危険区域の一部（防集跡地）約19.0haを都市公園（津波防災緑地）として整備することにより、L2クラスの津波に備えた緩衝機能（津波減衰による浸水被害範囲の軽減や避難時間の延伸等）を確保するとともに、多目的イベント広場（のんちゃんパーク）や展望休憩施設（ほたてんぼうだい）、海浜活動広場など6つのゾーンで構成され、村民の憩いの場としての役割も担います。

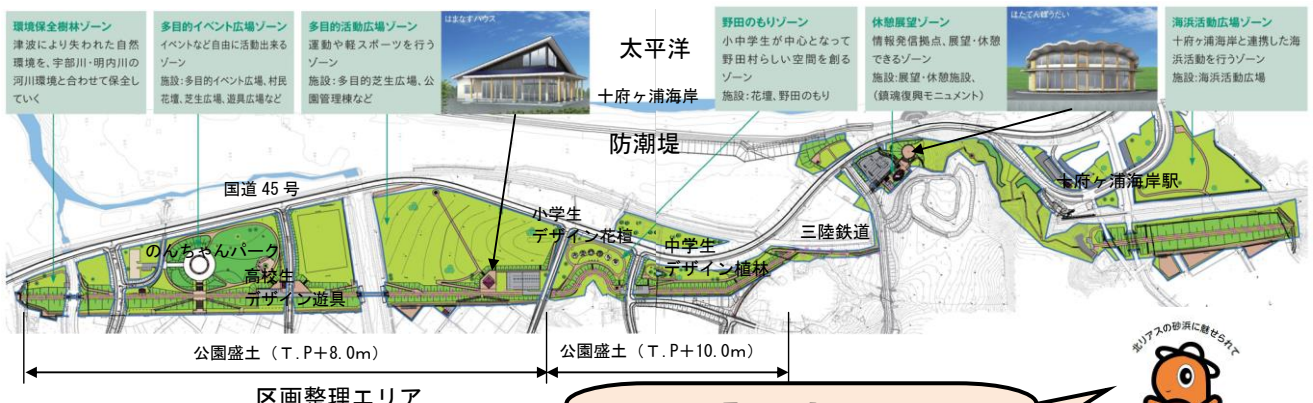
【事業内容】

- 事業期間：平成23年度～29年度
- 事業主体：野田村
- 総事業費：約22億41百万円
- 全体面積：約19.0ha
- 整備内容：盛土192千m³（団地造成流用土）、ほたてんぼうだい（展望休憩施設）、はまなすハウス（管理棟）、橋梁2橋

【子どもたちとの協働による公園づくり】
遊具のデザインを考える久慈工業高校の生徒たち（写真提供：野田村）



■十府ヶ浦公園平面図（図面提供：野田村）



水害から暮らしを守る 放水路の仕組みを勉強

カスリン・アイオン台風から70年 さいかわ 吸川放水路トンネル見学会

県南広域振興局土木部 一関土木センター

6月9日、一級河川吸川の放水路トンネルにおいて、一関市立南小学校4年生(83名)を対象とした施設見学会を開催しました。この見学会は、社会科見学と総合学習の一環として、平成16年から開催されています。

当日は、若手職員の泉田技師から、学区内を流れる吸川が氾濫しないための放水路トンネルの仕組みや役割などを説明し、その後、実際にトンネルに入って、施設の大きさなどを体験しました。参加した児童はトンネルが南小学校そばまでつながっていることに驚き、全員で学校まで届くような大きな声で「南小学校4年生〜!!」と叫び、トンネル内に響きわたりました。(その迫力は圧巻)



↑ 放水路トンネルの仕組みや役割を説明



↑ 中はひんやり、声が大反響!

← 「せーの!」で一斉に叫んだ声は学校まで届いた?!

今年、「カスリン・アイオン70年」として関連行事が多数開催されます。当センターでも一関市の重要な水防施設である当該トンネルを一般市民の方にも理解していただき、水害への認識を改めて深めていただくきっかけにできればと考えています。

■ 「カスリン・アイオン70年」ロゴマークのデザインとコンセプト ■

青い線は「北上川」と「支川」、緑の線は「整備された堤防」、水色の渦は「大型の台風」をイメージし、「70年」の歳月を表現しています。水害の記憶や教訓を風化させず伝承するとともに、これからの防災を地域住民としっかり考え、「被害の最小化」を目指す想いが込められています。



胸に刻もう

『カスリン・アイオン台風70年』

～風化させない歴史とつなげる未来～

児童からいただいた感想文

後日、小学校から参加児童の感想文をいただきました。

「放水路が大雨の被害を防いでいることを知りました」「とても大きくてびっくりしました」「普段は入れないところに入れて楽しかったです」などの感想や、中には「これからも応援するので一生けんめい働いてください」とか「ぼくも放水路の仕事をやりたい」などという励ましもいただきました。

現在、一関合同庁舎1階に展示しており、今後は場所を変えた展示も検討したいと考えています。



初の職員による清掃

見学会が安全に実施できるよう、開催直前に、河川砂防チームを中心に職員による清掃を2回行いました。職員による清掃は今年が初めてで、**自らも改めて社会資本整備の大切さを認識する機会**となりました。

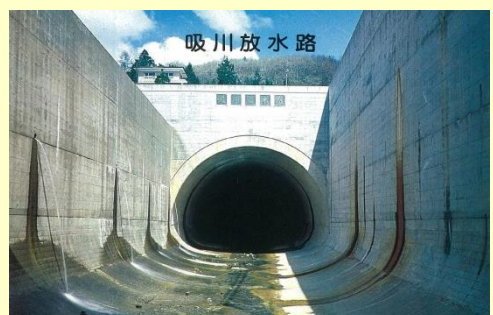


一口メモ ～吸川放水路トンネルの歴史～

一関市は、古くから北上川と磐井川の氾濫に苦しめられ、特に昭和22年・23年のカスリン・アイオン台風により、一関市の中心市街地とその周辺は壊滅状態になりました。

一方、磐井川支流の吸川は流域面積の小さい典型的な都市河川で、ちょっとした氾濫が大きな被害に結びつき、幾度となく多大な災害を繰り返してきたことから、一関市の発展上欠くべからざるものとして県が当該トンネルを整備しました。

吸川放水路トンネルは、市街地を流れる新山川・吸川と磐井川を結び、昭和47年着工、56年に完成しました。(長さ1,631m、幅11.8m、高さ8.4m)



平成 30 年度政府予算等に係る提言・要望を実施

県土整備企画室

6月14日、達増県知事による「東日本大震災津波等からの復興と地方創生の推進に当たっての提言・要望」と、「平成30年度予算への提言・要望」を国に対し行いました。

東日本大震災津波等からの復興と地方創生の推進に当たっての提言・要望

今年度は、県の第3期復興実施計画の初年度であり、復興事業の総仕上げを視野に、復興の先も見据えた地域振興にも取り組みながら、復興の推進に全力を挙げています。

復興の取組が着実に進展する一方、まちづくりの進捗に伴う新たな課題も顕在化しており、これらの課題への対応について、関係省庁へ要望しました。

県土整備部関係については、「直轄事業の着実な推進」、「社会資本整備総合交付金（復興）の復興の進度に応じた予算配分」、「高田松原津波復興祈念公園の早期整備」等について要望したほか、昨年8月に発生し岩泉町を中心に甚大な被害をもたらした台風第10号災害における公共土木施設等の早期復旧や財政措置の充実について要望しました。

平成30年度政府予算への提言・要望

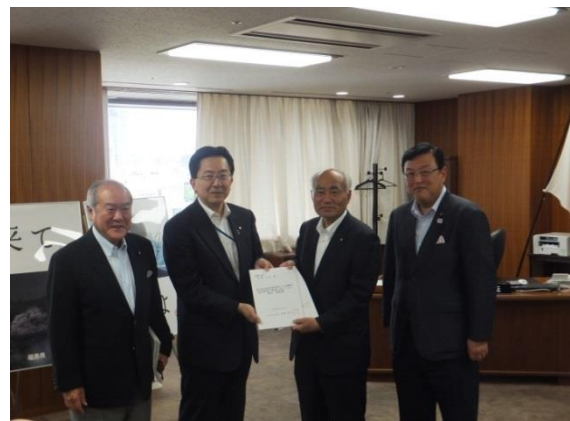
また、平成30年度政府予算に向け、その他県政課題全般に係る提言・要望活動を行い、県土整備部関係については、「物流の効率化など生産性向上に資する社会資本整備」や「災害に強い県土づくりへ向けた防災・減災対策」、「社会資本の戦略的な維持管理」などに対する財政措置等を関係省庁に要望しました。

国土交通省への要望に対しては、石井大臣から、「復興事業については、政府全体の最重要課題として引き続きしっかりと進めていく」、「台風第10号災害を契機に水防法等を改正したところであり、ソフト・ハード対策を一体として取り組んでいく」、「社会資本の維持管理や新規投資のため公共事業予算を広げていかなければならないと認識している」といった旨の回答をいただきました。

県では引き続き、震災津波や台風災害からの早期復旧・復興、地方創生、国土強靱化等の取組を推進していくとともに、今後も継続的に国へ働き掛けていきます。



国土交通省への要望状況
(左から、石井啓一国土交通大臣、達増拓也岩手県知事)



復興庁への要望状況
(左から、鈴木俊一衆議院議員、達増拓也岩手県知事、吉野正芳復興大臣、長坂康正復興大臣政務官)



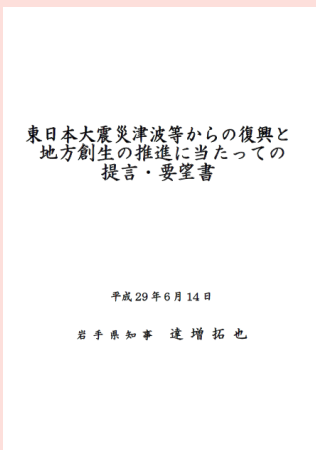
自民党への要望状況

(写真左：左から、達増拓也 岩手県知事、額賀福志郎 自民党復興加速化本部長、谷公一 自民党復興加速化本部事務局長、鈴木俊一 衆議院議員

写真右：左から、達増拓也 岩手県知事、二階俊博 自民党幹事長)

【主な要望内容（県土整備部関係）】

（復興・創生）



- ラグビーワールドカップ 2019 開催に係る支援
- 社会資本整備総合交付金（復興）の復興の進度に応じた確実な予算措置
- 被災地の繰越手続の簡素化及び復旧・復興の進度に応じた予算配分
- 高田松原津波復興祈念公園の早期整備
- 津波対策施設に係る維持管理費等に対する財政措置
- 被災者の生活再建に対する支援
- 平成 28 年台風第 10 号災害における公共土木施設等の早期復旧及び財政措置の充実
- 汚水処理施設整備の推進による衛生的で快適な生活環境の確保

（通常）



- 公共事業予算の安定的・持続的な確保
- 直轄事業の整備促進
- 高規格道路等の適切な管理体制の確保
- 物流の効率化など生産性向上に資する社会資本整備への支援
- 観光振興に資する社会資本整備等への支援
- 災害に強い県土づくりへ向けた防災・減災対策への支援
- 暮らしの安全・安心の確保に必要な社会資本整備への支援
- 社会資本の戦略的な維持管理への支援

※詳細な要望内容は、岩手県公式ホームページで公開しています。

(トップページ>県政情報>政策>政策推進>政府予算への提言・要望>平成 30 年度政府予算等に係る提言・要望 (平成 29 年 6 月 14 日実施))

「優秀建設施工者岩手県知事表彰式」を開催

建設技術振興課

平成29年6月12日、「第25回優秀建設施工者岩手県知事表彰式」を盛岡市の建設研修センターで開催しました。

この表彰は、優秀な建設施工者を広く表彰することにより、「ものづくり」に携わっている者の誇りと意欲を増進させ、これらの方々の能力と資質の向上を図るとともに、その社会的評価・地位の向上を図り、建設業の健全な発展に資することを目的として実施しているもので、建設産業構造改善推進週間の一環として、平成5年度から開催しているものです。

今年度の受賞者は7名で、表彰式では千葉副知事から表彰状と建設マスターの徽章が授与されました。

【受賞者一覧】

(敬称略)

受賞者名	所属会社	所在地
泉館 俊一	(株)沼井建設	二戸市
伊東 和彦	横田建設(株)	一関市
小野寺 雄治	(株)舞石組	一関市
菊池 智	(株)小原建設	北上市
工藤 勝	(株)遠忠	八幡平市
佐々木 太作	(株)照甲組	花巻市
千葉 栄	樋下建設(株)	盛岡市

